

林 野 庁  
北海道森林管理局  
釧路湿原森林環境保全ふれあいセンター  
平成23年度 年 報  
平成24年3月30日発行



ミスナラの巨木：大きさを実感



クマゲラ（雷 別）



森林アクティビティ講座「野草の観察会」

### この一年を振り返って

（所長 宮 本 元 宗）

平成23年は、国連が定めた国際森林年でした。国内テーマ「森を歩く」を掲げて、日本全国で様々な行事が行われ、各地でシンポジウムや国際森林年記念行事において森林・林業の大切さがアピールされました。

釧路湿原森林環境保全ふれあいセンターでも、森林ボランティア作業などを実施する「雷別ドングリ倶楽部」の活動を始め、「森林アクティビティ講座」、「森林利用サポート事業」などを国際森林年記念事業と位置づけ実施し、また根釧西部森林管理署とともに「国際森林年記念 夏休み親子国有林観察ツアー」や釧路市こども遊学館とともに「フォレストスクール」を開催し、たくさんの地域の方々のご参加をいただきました。

平成23年度の事業をスムーズに実施できたのは、関係者の皆様のご理解とご協力をいただいた結果と感じており、心から厚くお礼申し上げます。

## 中チャンベツ発！ 学校林「るんるんフォレスト」で楽しく学ぼう！

### 1. はじめに

学校教育の現場においては、森林をフィールドに自然観察等の様々な体験学習が実践されており、当センターが所在する釧路総合振興局管内の小中学校においても、学校林を活用しての教育活動が行われています。

本課題では、標茶町立中茶安別小中学校が自校の学校林（「るんるんフォレスト」）を活用し教育課程において行っている森林を教材とした教育活動（以下「学校林活動」）と、当センターが本活動にあたり、平成 18 年度から継続して行ってきた協力内容、そして今後の協力のあり方等について報告します。



図 1 中茶安別小中学校の位置

### 2. 学校及び地域

所在地である標茶町は、釧路総合振興局管内のほぼ中央に位置し、中茶安別小中学校は同町市街地の南東（図 1）、牡蠣の養殖で知られる厚岸湖に注ぎ込むチャンベツ川上流域の中茶安別地区に所在しています（図 2）。児童生徒数は、小学生 22 名、中学生 11 名、計 33 名の小規模校で、小学校と中学校が併置されています（写真 1）。



写真 1 活動に参加する全校児童生徒

### 3. 学校林の概要

学校林は、学校校舎の西方約 2 km に位置しています。設置は昭和 11 年で、面積は約 9.7 ha、周囲は民有林、牧草地、湿地に囲まれています。地形は、南側はほぼ平坦地で、北側は河川に向かい傾斜地となっています。林内には、案内板、歩道、樹名板、ツリーハウス等が整備されています（写真 2・図 3）。



図 2 学校林の位置



写真 2 学校林内の様子

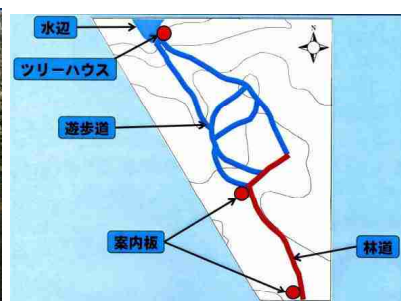


図 3 学校林の概要

### 4. 学校林活動の概要

学校林は 76 年の歴史を有し、そのため活動内容は時代により変遷しています。

#### （1）設置前期の活動

設置から昭和 40 年頃までは、植林を中心とした活動に重点が置かれました。特に第 2 次世界大戦後、森林資源の復興と青少年教育に資するために学校での植林活動の必要性が全国的に取り上げられ、同校においても植林計画を樹立し、取組を行いました。

標茶町教育史によると、昭和 21 年にトドマツ 600 本を植林したのがはじめて、その後、昭和 38 年までにカラマツ 40,280 本、ドドマツ 2,100 本が植林されています。

これらの取組により、昭和 37 年に全国中学校植林コンクールに優勝しています。

#### （2）現在の活動

現在、同校では、特色ある教育として「ふるさと教育」という取り組みを進めています。「地域の環境を生かし、生きる力を育む ふるさとを愛する教育」と位置付け、「自分が生まれた育ったふるさとをのよさを発見し、ふるさとに愛着や誇りをもって地域づくりに貢献できる子どもを育てる」ことをそのねらいとしています。

教育課程における「ふるさと教育」の主な活動として、「学校林活動」をはじめ、「学



校農園活動」、「学校花壇活動」等を通じて取組が実践されています。

## 5. 学校林活動の内容

### (1) 全校児童生徒による活動

全校児童生徒で行う活動として、春、夏、秋の年3回（1回3時間）の活動が行われています。平成23年度の春の活動では、カラマツの植樹を行っています（写真4）。また、秋の活動では、平成15年植栽の広葉樹に雪囲と手作りの野ソの食害防止器具の設置（写真5）や、林内に設置した巣箱の清掃を行いました。この全校で行う活動では、冬季に向けた準備や融雪後の手入れ等、季節感を考慮した内容になっています。また、作業に当たっては、学年を横断した班編制で行っており、活動を通じて上級生と下級生の交流が図られるようになっています。

### (2) 学年ごとの活動

全校での活動とは別に、小学校3・4年生では、学校林で採取した山菜を調理する「春の山野草を食べてみよう」、昆虫等の観察を行う「森に住む小動物をつかまえよう」（写真6）、ロープを用いた木登り体験「木に登ろう」を、中学生では、学校林の水辺を起点とした水の循環を学ぶ「学校林の水源地から厚岸湾をめざそう」といった様々な体験学習の場として活用されています。



写真4 カラマツの植林



写真5 野ソの食害対策器具の設置



写真6 捕獲用トラップを観察

## 6. 当センターの協力

### (1) 実施内容

当センターでは、主に「夏の学校林活動」に講師として協力を行ってきました。実施に当たっては全学年が対象となるため、学年の理解力を考慮した内容としました。

小学校低～中学年には、地域の自然を身近に感じ、親しみをもってもらうために、「葉っぱのスケッチ」や「樹幹のこすりだし」など五感で楽しむ観察を行いました（写真7）。

また、小学校高学年と中学生には、樹木の炭素量の計算や目測での樹高の測定といった、これまで他の教科で学習したことを応用して課題に取り組む内容としました。

今年度の夏の活動では、全学年で同一内容で実施したいとの学校の要望を踏まえて、「学校林を含めた地域の水の循環」をテーマに、パネルを用いた紙芝居形式による説明と森林土壌の保水力についての実験を、学校林の土壌を実際に用いて行いました（写真8）。

### (2) 今後の協力のあり方

学校林は優れた教育素材であるとの共通認識のもと、協力関係を引き続き継続していくことを考えています。

その実施に際しては、活動の基本方針である「ふるさと教育」がねらいとしている子ども像を意識し、特に「ふるさとの良さの発見とふるさとへの愛着」が活動を通じて醸成されること、また、地域の自然環境を素材に生かしつつ、広域性のあるテーマを取り上げ、幅広い視点をもってもらうこと、併せて小規模併置校の特性を生かして、異学年の交流を促進することを念頭に実施していきます。



写真7 低中学年の活動の様子



写真8 「水の循環」の説明・実験

## 7. 釧路管内の学校林の活用状況等

本課題に関連し、釧路総合振興局管内における学校林の設置状況等についてのアンケート

ト調査を、今後の当センターの業務運営に資することを目的に実施しました。

#### (1) 調査対象等

- ① 調査対象 釧路総合振興局管内の小学校及び中学校 106校  
(※併置校(10校)は1校としてカウント)
- ② 調査項目 学校林の設置及び活用状況と外部の人材活用へのニーズに係る20項目
- ③ 回答校数 75校(回答率71%)

#### (2) 調査結果の概要

##### ① 活用の状況

学校林設置校は17校で1市5町に所在しています。そのうち、6校が環境教育等で活用しています(図4)。具体的な活用内容としては、「樹木等の自然観察」、「昆虫等の採集」、「自然物を活用した遊びやものづくり」、「ビオトープの造営」等として幅広く活用されています。また、6校とも「今後も活用する予定」としています。

##### ② 学校林が活用されない要因

学校林を有し現在活用していない学校(11校)においては、今後の活用に対し約6割(7校)が関心を有しています。

現在、活用が行われない要因は、「遊歩道等がなく林内を散策できる状態ではない」が約7割(8校)、「人員が限られており現状では対応できない」が約5割(5校)となっています。歩道等の施設の未整備が利用上の制約になっていること、また、職員の配置状況等人的な面での制約があることが読み取れます(図5)。

##### ③ 外部の人材の活用状況

環境教育等における外部の人材活用については、75校のうちの約5割(42校)が活用しており、活用に対するニーズは高い状況と言えます。その人材の内訳としては「自然ガイド」が6割(32校)を超えており、自然ガイドを有する施設が多い地域性が反映された結果となっています。

##### ④ 外部の人材に実施してほしい内容

外部の人材に実施してほしい内容としては、「樹木等の自然観察」、「各教科の学習内容を補足、発展させるプログラムの実施」が約5割(36校)と多い結果になっています(図6)。

#### 8. 今後の学校教育への協力のあり方

アンケート結果及びこれまでの中茶安別小中学校との協力関係で培われたこと等を踏まえて、今後の学校教育への協力のあり方について考察します。

##### (1) 学校林の活用

釧路総合振興局管内の学校林の活用については、現在学校林を有し活用していない学校の6割が興味を示す結果となりましたので、当センターとしては、教材や指導方法の提案を要望のある学校に行い、学校林等を活用した森林環境教育の実践を促す施策を検討したいと考えます。

##### (2) 釧路総合振興局管内の学校教育への協力

平成24年度から新学習指導要領が完全実施され、当センターが実施する森林教室等の教科として最も利用されている「総合的な学習の時間」が現在より削減されます。一方で、同時間においては課題解決的学習の質的な充実を図るとともに、教師が子どもたちと向き合う時間の確保のために、外部の人材の活用を図ることが求められています。

このような状況を踏まえて、学校現場が外部人材に期待する「樹木等の自然観察の実施」、「各教科の内容を補足、発展させるプログラムの実施」といったニーズに応える質の高い指導方法の提案を行うことが、今後さらに必要になってくると考えます。

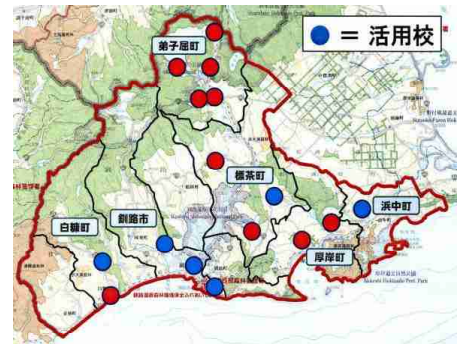


図4 釧路管内の学校林所在箇所

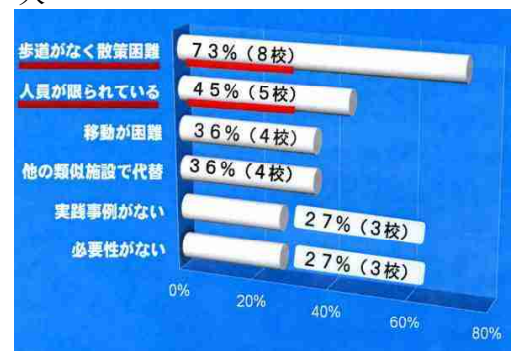


図5 学校林が活用されない要因

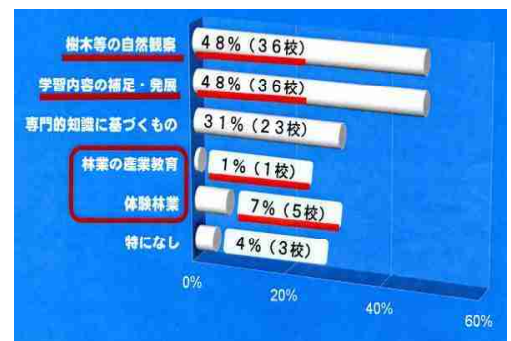


図6 外部の人材に実施してほしい内容



## この1年間の取組

### 〈自然再生・生物多様性保全〉

協議会＝自然再生協議会

4月26日 協議会 再生普及小委員会第20回再生普及行動計画ワーキンググループ出席

6月30日～7月22日 野生動物生息調査をパイロットフォレストで実施

7月4日 協議会 事務局会議出席

5月25日 雷別ドングリ倶楽部活動（第1回：広葉樹タネの播種作業、遊歩道看板設置）を実施

7月13日 雷別ドングリ倶楽部活動（第2回：ヘキサチューブの撤去作業、植物の観察）を実施



遊歩道看板設置

雷別ドングリ倶楽部の今年度最初の活動をパイロットフォレストで実施しました。昨年雷別自然再生事業地周辺で採取したドングリ（ミズナラ）、ハルニレのタネを、発泡スチロールを利用した播種床に播き付を行いました。また、パイロットフォレストの望楼付近に設けた遊歩道に看板も設置しました。

9月5日～28日 野生動物生息調査をパイロットフォレストで実施



食料を運ぶエゾリス

6月19日 森林アクティビティ講座を実施

今回は雷別国有林で、①自然再生事業で使用する苗木を育成するためのシードトラップを設置、②自然再生事業地に設けられた遊歩道の整備を実施、③講師を招き「野草の観察会」を実施しました。

9月14日 雷別ドングリ倶楽部活動（第3回：広葉樹苗の植付け、ヘキサチューブの設置）を実施



広葉樹苗の植付け

（マルチキャビティコンテナの苗はハルニレ）

今回の活動は、ミズナラ・ハルニレ・ヤチダモ・イタヤカエデ・シラカンバの5種類の苗木200本と、当倶楽部会員が「お庭で苗木育成」に参加して、大切に育てていただいたハルニレの苗木も一緒に植樹し



野草の観察会の様子

ました。また、植えた苗木を鹿の食害から防ぐ「ヘキサチューブ」の設置も行いました。

#### 9月25日・10月2日 ボランティアグループによる植樹作業を実施

雷別自然再生事業地でボランティアグループにより、広葉樹苗5種（ミズナラ、ヤチダモ、ハルニレ、イタヤカエデ、シラカンバ）200本をそれぞれ植樹しました。

新宗連釧路協議会による植樹（9月25日）



おはこ会による植樹（10月2日）



10月11日 協議会 再生普及小委員会  
第8回環境教育ワーキンググループ出席

10月26日 協議会 再生普及小委員会  
第21回再生普及行動計画ワーキンググループ出席

#### 11月25日 協議会 第11回森林再生小委員会出席

森林再生小委員会は、協議会の下に設置された小委員会の一つで、森林の再生に関する計画と実施状況、モニタリング結果を検討します。



意見交換を行う小委員会委員

11月30日 雷別ドングリ倶楽部活動  
（第4回：飾り炭作り、炭焼き、枝打ちと保育間伐）を実施

12月6日～21日 野生動物生息調査を  
雷別自然再生事業地で実施

#### 12月6日 協議会 第18回自然再生小委員会出席

自然再生小委員会は、協議会の下に設置された小委員会の一つで、各小委員会が実施している自然再生事業の普及啓発、市民参加、環境教育などの取組を行っています。



意見交換を行う小委員会委員

12月7日 協議会事務局会議出席

1月16日 協議会事務局会議出席



**2月2日～23日 野生動物生息調査を雷別自然再生事業地で実施**



夜の雪原を駆けるウサギ

**2月20日 協議会 再生普及小委員会 第9回環境教育ワーキンググループ出席**

2月15日 釧路湿原自然再生協議会出席  
釧路市にある「アクア・ベール釧路」で、個人会員11名、14団体各委員及び関係行政機関などが出席して第17回釧路湿原自然再生協議会が開催されました。

各小委員会の報告、施策の点検、協議会の今後の運営など活発な意見交換が行われました。



雷別自然再生事業説明

**2月22日 雷別ドングリ倶楽部活動（第5回：冬芽の観察会、次年度事業の打合せ）を実施**

雷別ドングリ倶楽部会員12名が参加して今年度最後の活動を実施しました。



冬芽の観察会の様子

**〈森林環境教育〉**

**5月3～5日 釧路市こども遊学館ゴールデンウィークイベント『木のおもちゃであそぼう!』に参加**

「アイスの棒 de クラフト」（5月3日実施）では、親子や友達同士など50組ほどが参加して、テーブルやイス・家など思い思いの工作に挑戦してもらいました。また、「つみっきーで遊ぼう!」（5月4・5日）では、小さな子供連れの親子や友達同士が、普段あまり手にしたことがない木製の積み木で楽しんでいました。

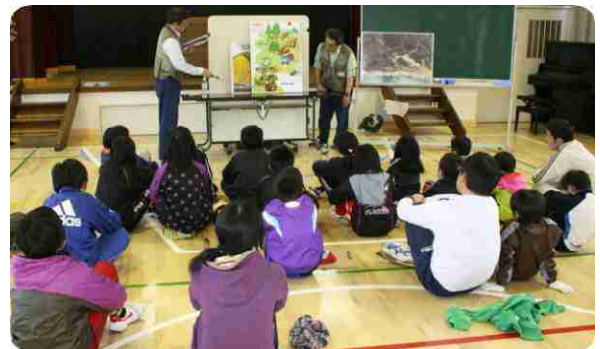


何をつくろうか・・・

**6月6日 釧路町立知方学小学校で森林教室を実施**

同校は、厚岸湾の西側に位置する尻羽岬の太平洋を眼下に望む高台に所在し、周囲を国有林が囲んでいます。

森林教室は、全校児童が体育館に集まり、森林の生い立ちや森林がどのように私たちの暮らしに役立っているのかを学んだあと、低学年と高学年に別れ、学年に合わせた森林教室を行いました。



イラストパネルを利用して全体学習

7月17日 釧路市こども遊学館と連携して「フォレストスクール～自然の中で遊ぼう！学ぼう！～」を実施

「森の宝さがし」でお宝ゲット！



フォレストスクールは、釧路市こども遊学館が参加者を募集し、小学生の親子14名が参加して、「飾り炭作り」、「火起こし体験」、「森の宝さがし」を行いました。特に「森の宝さがし」では、こどもたちが遊歩道のウッドチップの中に埋められた「お宝！」を見つけるため、隠し場所を撮ったヒント用の写真の中の木の形などを手がかりに真剣に取り組んでいました。

8月6日 釧路市こども遊学館夏休みイベント「のってけ☆夏っこ！」に参加



木工工作「つるっと！タンチョウ」制作中

当センターは、親子で一緒に行う木工工作に講師として参加し、釧路湿原に生息する国の天然記念物であるタンチョウ親子の置物作りを指導しました。

7月29日、8月8・29日 京都大学見学実習を支援

京都大学農学研究科森林・林業政策学などの教授及び学生が、国有林内における釧路湿原の保全管理の実態と周辺の森林資源管理の現状を知るために見学実習に訪れました。



パイロットフォレストの歴史を勉強

9月7日 標茶町立中茶安別小中学校で森林教室を実施



学校林内の土壌の保水力実験中

夏の学校林「るんるんフォレスト」活動が行われ、当センターでは、イラストパネルを使用して、「森林と水の関わり」についての学習を行いました。その後、各班に別れ学校林内の土壌と裸地上の土壌の保水力の違いを観察する実験を行いました。



### 9月11日 白糠町イベント『白糠カミングパラダイス』に参加

白糠町緑化推進委員会が行う木育事業に協力するため「積み木とモク粘土細工」で参加しました。



モク粘土細工を楽しむ参加者

る木」の冬囲い、「巣箱の清掃」を行いました。

自動撮影カメラに興味津々の子供たち



### 10月14日 北海道育樹祭に参加してミニ森林教室を実施

北海道森林管理局と北海道が主催して、十勝西部森林管理署管内の音更町と芽室町にまたがる国有林、国見山自然観察教育林で育樹祭が行われました。当センターは、帯広市内の小学校の児童を対象に保育間伐、除伐、枝打ち等の「森づくり作業」の指導と作業終了後のミニ森林教室を行いました。

ミニ森林教室（パウチはがき作成）



ネズミの食害から木を守るため、  
切ったペットボトルを巻く児童

### 10月27日 標茶町立中茶安別小中学校で森林教室を実施

秋の学校林「るんるんフォレスト」活動が行われ、当センターは「森林と野生動物」の学習で支援しました。更に学校林内にはどんな動物がいるのか確認するため、センターで使用している野生動物生息調査用の自動撮影カメラ3台を学校林内に設置しました。

また、学校林に植えられている「実のな

## 〈NPO 等・その他の取組〉

6月4～5日 「くしろエコ・フェア2011」に参加



木の実・木の輪切りで工作

釧路市こども遊学館を会場に「くしろエコ・フェア」が開催されました。当センターでは、「つみつき〜で遊ぼう!」と「木の実・木の輪切りで工作」の二つで参加して、森林や木に関心を持ってもらう機会を提供しました。

7月6日・21日 森林利用サポート事業を実施

はしどいクラブ（7月6日）



彩の会（7月21日）

お年寄りを対象に「生涯学習」をテーマに様々な活動を実施している非営利的な組織2団体とそれぞれ連携して、パイロットフォレストにおいてユニバーサルデザイン木道を利用した森林浴や飾り炭作り体験を実施しました。



7月28日 釧路教育局新規採用教員研修を実施

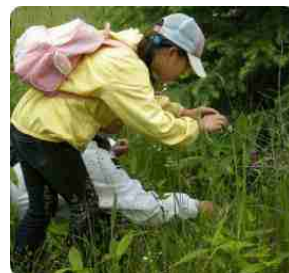


カミネッコンによる苗木作り体験

北海道教育庁釧路教育局が実施する初任者研修がパイロットフォレストで行われました。この研修は「野外における諸活動の指導方法の基礎を取得し、今後の教育活動の充実に役立てる」ことを目的としています。研修を支援するに当たっては、参加人数が多いことから、当センターと根釧西部森林管理署が共同で支援活動を行いました。

7月31日 国際森林年記念行事『夏休み親子国有林観察ツアー～パイロットフォレスト「森林を歩く」～』を実施

当センターと根釧西部森林管理署が主催して、夏休み親子国有林観察ツアーをパイロットフォレストで実施しました。釧路総合振興局管内の各市町村から集まった小学生の親子が参加して「森を歩いて写真撮影と写真立ての飾り付け」、「飾り炭作り」、「望楼見学」を行い国有林（パイロットフォレスト）を満喫していただきました。



お気に入りの一枚を求めて

オリジナルの写真立て作り





### 9月15日 森林利用サポート事業を実施

お年寄りを対象に「生涯学習」をテーマに様々な活動を実施している非営利的な組織団体「遊学の会」と連携して、パイロットフォレストにおいてユニバーサルデザイン木道を利用した森林浴や飾り炭作り体験を実施しました。

遊学の会のメンバー



### 9月16日 JICA（国際協力機構）の研修受け入れ

JICA が行っている海外研修生の研修をパイロットフォレストで実施しました。当センターは炭焼きの研修科目で受け入れ、ドラム缶形簡易炭焼窯を使用して、「窯の構造」、「炭焼きの手順」などの説明を行い、実際に炭焼き体験をしてもらいました。

炭窯に材料を入れる研修生



### 11月3日 青少年のための科学の祭典釧路大会サイエンス屋台村に参加

観察をする親子



釧路市こども遊学館を会場に、子供たち

に科学のおもしろさを知ってもらうための「サイエンス屋台村」が開催されました。

当センターは、稚樹、葉、種子のアクリル見本をデジタル顕微鏡で細部まで観察を行う、数少ない生物分野の体験ブースとして出展しました。

### 11月12・13日 国際森林年記念行事、親子木とのふれあい「木育・森づくりパネル展」に参加

国際森林年を記念して、イオン釧路昭和ショッピングセンターで、釧路地域の森づくりを知ってもらうため釧路町村会で構成する「地域づくり広域プロジェクト環境保全型森づくり PT」と釧路総合振興局管内の市町村などで構成する「くしろ森と緑の会」が主催して「木育・森林づくりパネル展」が行われました。

当センターは、木育工作体験コーナーに出展し、こどもたちに「巣箱作り」に挑戦してもらいました。



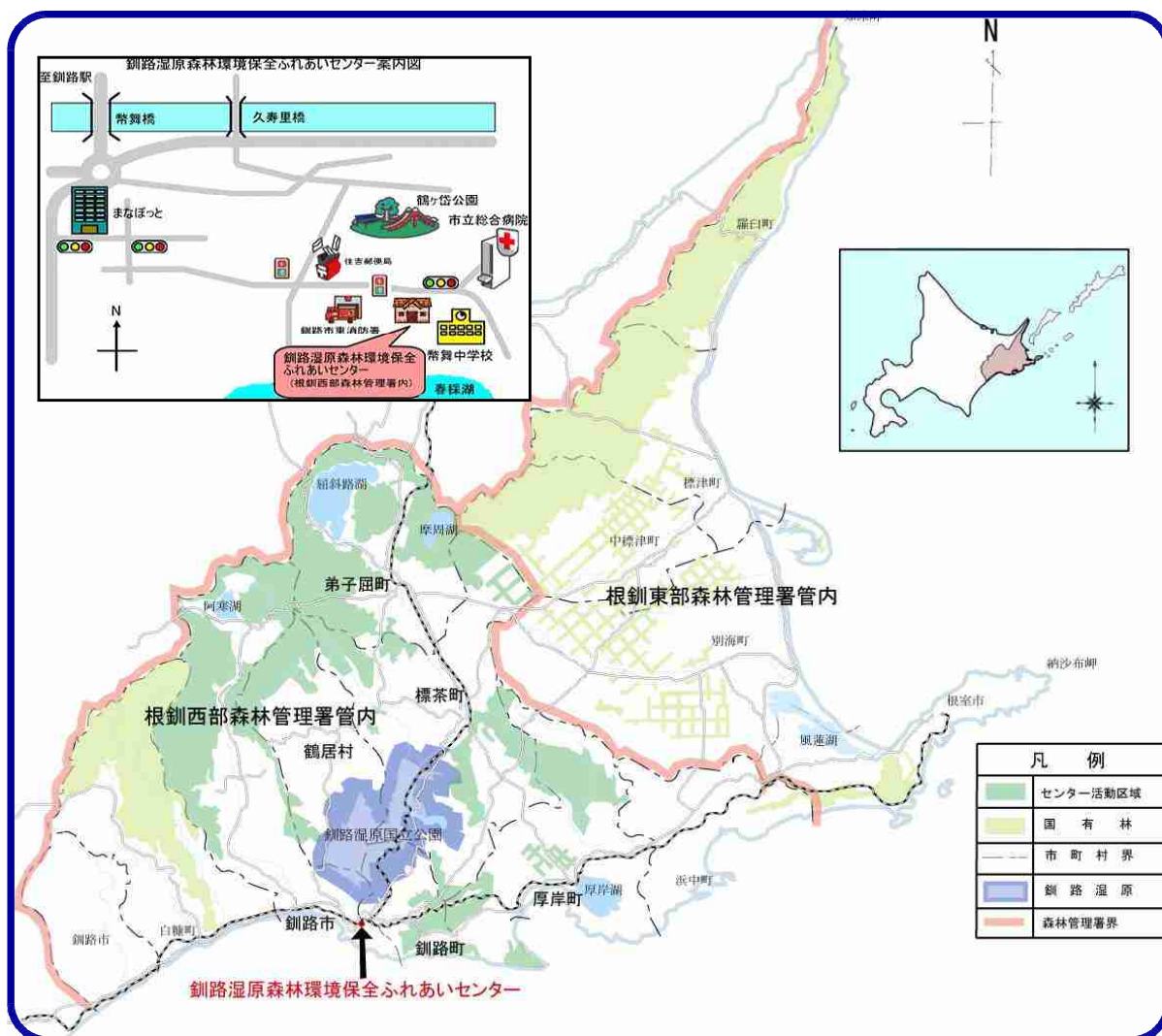
「巣箱作り」にチャレンジする子供たち

### 12月16日 「2012年雷別地区国有林カレンダー」をホームページに掲載

### 3月7日 釧路みどりの環境づくり地域会議に出席

### 4月～3月 広報紙「飛鶴の森林から」第50号～第61号（各月）発行

## 釧路湿原森林環境保全ふれあいセンターの主な活動区域



林 野 庁

北海道森林管理局

釧路湿原森林環境保全ふれあいセンター

連絡先：〒085-0825

北海道釧路市千歳町 6-11

TEL：050-3160-5787, 0154-44-0533

FAX：0154-41-7305

e-mail：h\_kushiro\_f@rinya.maff.go.jp

HP（ホームページ）：[http://www.rinya.maff.go.jp/hokkaido/kusiro\\_fc/index.html](http://www.rinya.maff.go.jp/hokkaido/kusiro_fc/index.html)